

## 3 工事監査

都が行っている工事について、不経済な支出や不適切な施工がないかなど、技術面等から監査しました。

都が実施している工事等について、計画、設計、積算、施工、維持管理等の各段階で、不経済な支出や不適切な施工がないかなどを主眼とし、効率性、有効性の観点にも留意して技術面等から検証しました。

今回は、16局の1,860件の工事について監査を実施しましたが、その結果、35件の指摘及び3件の意見・要望を行いました。

また、「設計変更」を重点監査事項として設定し、設計変更が適切に行われているかを適正性、経済性の観点から検証しました。

主な指摘、意見・要望事項は、以下のとおりです。

### ▶ 東京都建設リサイクル推進計画・同ガイドラインに基づく再生資源の利用促進を適切に行うよう検討すべきもの

都は、環境に与える負荷の軽減とともに、東京の持続ある発展を目指すために、「東京都建設リサイクル推進計画・同ガイドライン」を定めています。

公共工事の実施に当たっては、環境への負荷が少ない再生資源の利用に努めることとしており、舗装の路盤材については、再生路盤材を調達すべき特別品目として定めています。

しかし、武蔵野の森公園内の園路舗装工事では、本ガイドラインで定められている再生路盤材を使わず新材の粒度調整砕石を用いて施工しており、環境への負荷軽減を図るうえで、適切ではありません。

(意見・要望事項 建設局)

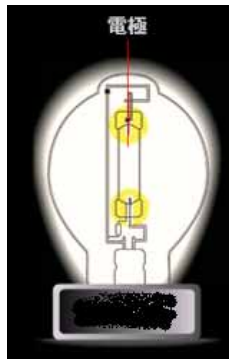
### ➤ 施設照明設備についてライフサイクルコストを考慮し検討すべきもの

都立調布養護学校校舎増築電気設備工事において、特別仕様の蛍光灯照明（昇降装置付）を取り付けていますが、同照明は電極放電を利用した発光方式のため、電極が消耗し球切れを起こします。

そのため、ランプ交換をする必要が生じ、ランプの消費や廃棄物の処理、また交換のための昇降装置が必要となります。

仮に、消耗する電極のない無電極放電灯照明を使用すれば、ランプ交換や昇降装置の必要はなく、ランプ交換費用及び設置費用約231万円が縮減でき、また、廃棄物の縮減にもつながるので、施設照明設備についてライフサイクルコストを考慮し検討するよう求めました。

（意見・要望事項 教育庁）



蛍光灯（現行）

電極間の放電で発光させる。  
電極の消耗により球切れが生じ、交換が必要となる。



無電極灯

電磁誘導で発光させる。  
消耗する電極がないため、球切れによる交換が生じない。

### ➤ 舗装こわし工の単価設定について検討すべきもの

配水小管の布設替工事において、小型掘削機（バックホウ）による厚さ5cm以下の舗装こわし工について見たところ、水道局の積算基準では、10cm以下は一律の単価として定めており、この単価を用いて積算していました。

しかし、建設局の積算基準では、同機械を使用した場合の厚さ5cm以下の舗装こわし工の単価が設定されています。仮にこの単価を準用すれば、積算額約1,016万円の縮減が可能であり、今後の工事においても同様の効果が得られます。

(意見・要望事項 水道局)



バックホウ

### ▶ 防水工事におけるシリコンシートの積算を適正に行うべきもの

東京国際展示場（東京ビッグサイト）会議棟の屋根などの防水補修工事において、東展示棟ガラス屋根のサッシュ枠の防水補修の積算について見たところ、防水補修工事に必要なシリコンシートの数量は約3,500mで足りるにもかかわらず、約7,100mで積算していました。

これは、誤って本工事施工範囲を超えた数量で積算してしまったためです。

このため、積算額約1,680万円が過大なものとなっています。

(指摘事項 産業労働局)



東京ビッグサイト東展示場